

講義名	企業倫理論					授業形態	
担当教員	李 東浩	開講期・曜日・時限		前期 水曜日 2 時限			
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

本授業は双方向・多方向的な授業である。
本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する。
本授業の実施方法の詳細について以下を参照してください。
李東浩（2017）「学生の心を掴む生きた教育－教学双方の底層転換によるアクティブラーニング－」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』 第2号 pp. 75-104（30頁）。
ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細について以下を参照してください。
李東浩（2022）「学部ゼミ運営に関する一探索―「楽しく読める」から「ひとづくり」―」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』 第3号 pp. 1-19（19頁）。
大学教育改革に関する論文も公開しており、以下を参照してください。
李東浩（2022）「大学教育の進化と変革―レスポンの活用とコロナ対策のオンライン教育の実像―」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』 第7号 pp. 119-134（16頁）。
李東浩（2023）「学習能力の形成と進化 ― 知の定着、深化と探索のパラダイム ―」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』 第8号 pp. 107-121（15頁）。
真面目な学生・本気に勉強の意欲がある学生は強く勧める。

到達目標

1．履修生は、企業倫理論を学修するものにとって当然知っておくべき知識を習得できるようになる。企業倫理論の基本的な理論を紹介するとともにケーススタディ（事例研究）をも採り上げるので、理論と実際とをバランスよく理解できるようになる。
2．履修生は、本講義を学修することによって、日常に企業に触れたり、企業に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聞いて、企業倫理的な側面から評価し、レポートにまとめることができるようになる。
3．本授業で得られた企業倫理の理論とケースの知識・能力を身につけ、初歩的な企業倫理分析を作成できるようにする。
4．「効率性」「営利性」など企業の利益追求活動と「人間性」「社会性」など企業倫理的な視点から総合的に企業倫理観を養成する。
5．履修生は、本講義を学修することによって得られた企業倫理の理論とケースの知識と能力を身につけ、正しい倫理観を形成できる。
具体的に （1）知識・能力・資格を身につける。 本講義を通じて「企業倫理の基礎」と目標そのものの目指すべき方向性を規定する企業倫理の基礎知識・能力と資格を学修・習得して身につける。企業倫理をはじめ、コーポレート・ガバナンス（企業統治）、コンプライアンス（法令遵守）、CSR（会社の社会的責任）、内部統制などの問題を中心に進め、企業不祥事の抑止、経営の健全性と効率性の向上を理解できるようにする。

提出課題

1．各自事前に、最低でも以下4つを使用できるように準備しておいてください。 リョウカポータル及び、 アウトLOOKメールoutlook mail及び、 レスポンス及び、 マイクロソフトTeamsアプリ、 などの使用方法等を熟知・理解し、毎回課題を提出できるように準備してください。
2．全員、授業開始前までに、授業専用Teamsグループに必ず参加してください（事前連絡あり）。 参加しないと、すべてのプリント資料やビデオ説明内容、連絡通知等の情報を入手できない。 当然、単位を修得できないだろう。
3．毎回レスポンス課題と期末試験（レスポンス課題提出式）の提出があるので、作成要領等の指示に従い、〆切期間中に提出してください。 ただし、単位判定対象となるのは、期末試験（レスポンス課題提出式）の1回分のみである。
4．それ以外の回では、レスポンス課題は自由提出になる。成績に影響を与えない。 ただし、学習勉強と自己成長の効果を実感するため、毎回の提出を勧める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

1．毎回、前回課題へのフィードバックと振り返りを丁寧に解説する。 優れた提出内容をマーカーや色付けで強調して表彰や注意喚起をする。 学習への意欲やモチベーションアップにつながるだろう。
2．毎回、全体的な状況や一部代表的な課題を見本として提示する。 双方向・多方向的考える学習型授業の醍醐味を理解して、互いに勉強しよう。
3．毎回、自分の学習成果のチェックだけでなく、他人の意見や考え、先生のコメント・説明をも確認でき、PDCAのスパイラルアップ過程を通じて、毎回自分のやる気にもつながり、自己成長を実感できる。

評価の基準

1．期末試験（3日間・レスポンス課題提出式）の1回分（100点満点）+平日発言プラスα点数で総合的に判定する。
2．期末試験の前身である、内容・要領・期間・時間等について、大学の期末試験期間中（第16週）にポータルシステムとTeamsの両方に提示する。 平日、真面目に授業を受けていると、周知に期末試験（レスポンス課題提出式）を完成できない。 ネット等の不具合対策を考慮したうえで、余裕をもって、〆切まで期間中に提出してください（特に〆切の間近に、ネットなど不具合の可能性もあるので、時間の余裕をもって提出してください）。 〆切後の提出は認めない。 レスポンス以外での提出は認めない。 土日休日等、返信が遅くなり、次の授業日にする。 成績に関する問い合わせは受付しない（連絡しても返事しない）。教務部へ問い合わせください。

履修にあたっての注意・助言他

先輩からの以下の意見是非参考してください。 1．「五感に触れる臨場的な授業」； ――充実した内容、効率的な進め方で知識と能力を身につけられる！
2．「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すぐに実行する。優良企業だと思います。モチベーションがとて高く維持できています」。 ――一方的な授業ではなく、交流の場でもある！
3．「いま4回生だがもっと早くこの授業に出会いたかった」； ――知識そのものだけではなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！
4．「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」 ――単位と知識能力を両立して楽しく取ろう！

教科書

.使用しない。.				

参考図書

.トップ・マネジメントの経営倫理、 高橋 浩夫（著）、経営倫理実践研究センター（監 査）、日本経営倫理学会	白根豊典（2009/10/1） 経営倫理	10	4561265236

その他

1．毎回、前回課題へのフィードバックや振り返りを解説する。優れた提出内容や改善してほしい内容等を、マーカーや色付けで強調して表彰や注意喚起をする。モチベーションアップにつながるだろう。
2．授業プリント、「先生説明版」と「映像ビデオ版」等配布資料は必ず各自Teams専用グループからアクセス・ダウンロード・印刷等を済ませて教室まで持ってきてください。 厳重注意：本授業はリョウカポータルには、最初の授業連絡通知と最後の期末試験通知の2回だけを提示するが、その他の授業資料や授業連絡・レスポンス課題提出等の連絡を一切掲示しない。 代わりにすべての資料・連絡・レスポンス課題等はTeams専用グループに連絡・公開する。 不明の場合、Teams専用グループのチャット機能か、大学のメールでの相談かを利用してください。
3．授業はPPT・プリント資料、映像、討論で進む。プリントには穴埋めが相当設けられ、授業中のPPTを確認しながら記入してください。

授業計画

授業計画、注：（ ）内はビデオ内容。 1 イントロダクション：講義の概要と進め方（公平とは何か） 2 経営者倫理観に関する調査その1（大嘗後のショベル掘上げは正当なのか） 3 経営者倫理観に関する調査その2（3人3様の殺人は正当なのか） 4 企業倫理と不祥事：憲印食中毒事件その1（あなただけの究極の選択：路面電車） 5 企業倫理と不祥事：憲印食中毒事件その2（5000人の白熱教室、市の匿名権他） 6 企業倫理と不祥事：エンロン事件その1（巨大企業エンロン、如何に崩壊したのか 上篇） 7 企業倫理と不祥事：エンロン事件その2（巨大企業エンロン、いかに崩壊したのか 下篇） 8 企業倫理の正しい例：トヨタ・キヤノン（トヨタの米国公聴会2つ） 9 経営原理と経営モデルその1（モダン・タムス） 10 経営原理と経営モデルその2（5000人の白熱教室：タムスと大学寄付） 11 企業倫理論の背景と発展（ハーバード大学白熱教室：功利主義の功罪 前編） 12 不祥事と企業統治：超人（効用の質、高級と低級の喜び？ 前編） 13 現代企業の所有支配、企業統治と企業倫理その1（効用の質、高級と低級の喜び？ 後編） 14 現代企業の所有支配、企業統治と企業倫理その2（正義と権利：課税に正義はあるか？前編） 15 大学の倫理（イエール大学）
--

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A型でもあるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1．文科省の大学設置基準第21条より、2単位の授業は90時間（以上）の学修を必要としている。 15回で割ると毎回6時間の学修時間は必要である。
2．毎回、90分の授業時間を2時間とみなされている。 毎回、授業外の予習と復習の時間は4時間が必要である。
3．毎回、教室の講義とともに、授業専用Teamsグループのプリント資料・ビデオ資料をも生かして、予習・学習・復習をしてください。
4．予習の一例として、初回目の講義では、「世間での公平・平等・正しい倫理とは何かについて考え、授業中に各自1分ほど発言できる。」のような質問に答えられるように、予習準備をしてください。 復習の一例として、「今回・前回の講義の内容やキーワードについてしっかり理解して、場合によって自己調べ・勉強もしましょう。どうしても分からなく知りたい場合、メールなどで担当先生へ連絡をしてください」。
5．先生とメール等とのやり取りする際、正しいマナーを十分意識し、「李先生」の宛先呼称・敬語表現・最後まで返信など、礼儀正しく言動を取ってください。
6．毎回、「知識は力になる」と、を実感できる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

1．企業や組織の運営仕組みを自ら主体的な立場からの確に理解できる。
2．身につけた知識・能力・資格等を生かして、組織メンバーと外部関係者とも協力的に働きかける。
3．正しい企業倫理観に基づき、不祥事を無くし、時代の要請に応え、健全で効率よく企業経営を達成するために積極的に参画する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義を聞くだけではなく、考えてグループワークで喋べたり、発言をする。 映像を見るだけではなく、メモしたり考えたり、レスポンスに回答を出し、発言をする。
1．質問やクイズなど、積極的に考えて、発言をしてみてください。
2．他人の発言を聞いて、自分も発言できるように授業に臨んでください。
3．先進的なレスポンスなどのシステムを駆使し、リアルタイムで他人の課題結果をグラフなどで確認でき、授業の効率と学習意欲の向上に繋がる。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみませんか。 通り串忠のある授業（そうか！これこそは大学らしい授業だ！）。 静かで受講できる環境（私語はほとんどない！）。 退席ではない（退席の時間さえもない！）。 みんな一緒に互いに勉強する（自力・他力、皆の力を感じるう！）。
--